

1 (5点×2)

(1)	100000	(2)	$\frac{7}{11}$
-----	--------	-----	----------------

2 (6点×8)

(1)	360 (度)	(2)	70 (個)	(3)	1509
(4)	3 : 5	(5)	576 (人)	(6)	880 (g)
(7)	(午後) 4 (時) 21 (分)	(8)	178.98 (cm <sup>2</sup> )		

3 (7点×2)

(1)	7.5 (cm)	(2)	4 : 11
-----	----------	-----	--------

4 (7点×2)

(1)	69	(2)	47
-----	----	-----	----

5 (7点×2) ※途中式や考え方は次のページ

(1)	(毎分) 75 (m)	(2)	450 (m)
-----	-------------	-----	---------

5 【途中式や考え方】

(1) 学校と駅間のきよりを1とすると、

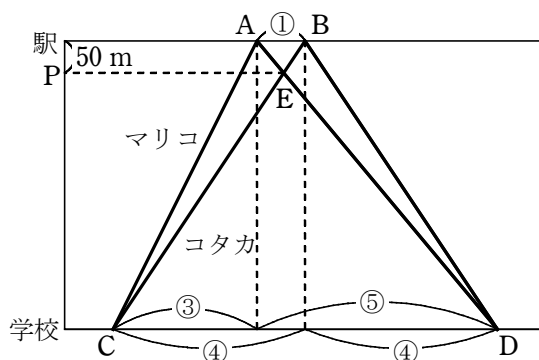
$$\text{マリコさんの行き時間は } 1 \div 100 = \frac{1}{100}, \text{ 帰りの時間は } 1 \div 60 = \frac{1}{60}$$

$$\text{なので、往復にかかった時間は } \frac{1}{100} + \frac{1}{60} = \frac{2}{75}$$

コタカさんは、往復のきより (=2) を進むのに同じ時間かかったから、その速さは  $2 \div \frac{2}{75} = 75$  より、毎分 75 m

(2) マリコさんが行きと帰りにかかった時間の比は  $\frac{1}{100} : \frac{1}{60} = 3 : 5$

よって、コタカさんが行きと帰りにかかった時間はともに  $(3+5) \div 2 = 4$   
 そこで、2人の往復の様子をダイヤグラムで表すと、下のようになる。



三角形 ABE と三角形 DCE は相似で、相似比は 1 : 8 だから、2人がすれちがった地点を P とすると、(駅と P のきより) : (P と学校のきより) = 1 : 8

よって、学校と駅間のきよりは  $50 \times (1+8) = 450$  (m)